

## 吉田財団設立40周年記念事業

## 令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会  
理事長 山倉修一 殿

学校名	福岡県立小郡特別支援学校
学校長名	永田 俊一
報告者	原 健太郎・田中 孝憲
寄贈品	1. キンボール 2. フロアカーリング
《振り返り》	
教育的課題	日常的に体を動かす機会が減少しており、体育の授業以外で多様なスポーツに触れる環境が十分ではなかった。また、友達同士で協力して行う運動の機会が減少し、小集団での活動経験が不足している状況が見られた。
教材活用の狙い	授業や休み時間など日常的に楽しく体を動かす機会を増やすことを目指した。また、新しいスポーツに触れることで興味・関心を広げ、協力・応援など児童生徒同士の交流を活性化することをねらいとした。
目的達成の為の工夫	学校ポータルを活用して教材導入を全職員に周知し、体育科教員と連携して使用準備や安全面の確認を行った。活動は簡単な内容から導入し、誰でも参加しやすい環境を整えた。
《教材活用の効果・成果》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	高等部ではキンボールを用い、小集団で触る・転がすなどの活動を行った。大きさに怖さを感じる生徒もいたが、ペアや小集団で扱うことで安心して参加できた。運動が苦手な生徒も、ボールにもたれかかるなど自分に合った関わり方で活動を楽しむ姿が見られた。慣れてくるとスピードを上げて転がす、競争するなど主体的に取り組む様子が増えた。 小学部ではフロアカーリングをクラブ活動を中心に活用した。初めてのニュースポーツに児童は興味を示し、補助棒を使用することで押す動作が難しい児童も参加することができた。チームで協力しながらゲームを行い、応援し合う姿が見られた。
対象者・利用頻度	キンボールは高等部3年生、フロアカーリングは小学部4・5・6年生が主に、体育の時間（週2時間程度）使用した。
目的達成状況	全職員への周知と体育科との連携により、活用体制を整えることができた。新しい教具に触れる機会を提供し、児童生徒の興味関心を高めることができた。補助具の活用により、障がい特性に応じた参加が可能となり、全員が活動に加わることができた。
教育的効果についての所見等	キンボールに対して怖さを感じていた生徒も、友達や教員と一緒に活動することで慣れ、楽しむ姿が増えた。フロアカーリングでは、ルールを守り協力しながら活動する姿が見られ、社会性の育成にもつながった。新しいスポーツに触れることで、運動への意欲や関心が高まった。

活用状況の写真等(当日の様子など)

## キンボール(高等部)



## フロアカーリング(小学部)



### 今後の活用見通し・課題

キンボールについては、全学年で慣れる活動を実施し、体育授業・クラスマッチ・交流学习などでの活用を促進したい。フロアカーリングについては、休み時間にも使用できるように紹介し、より親しみやすい環境を整える。クラブ活動だけでなく、学部を越えた交流学习でも活用し、協力・交流の機会をさらに充実させる。また、教材の保管・準備方法を整え、誰でも使いやすい運用体制を構築する。